

令和4年度 第1回

さいたま市立高等看護学院運営委員会議事録

1. 開催日時 令和4年7月21日(木) 午前10時30分～11時10分
2. 開催場所 高等看護学院 情報処理室
3. 出席者 (委員) 7人
細沼 寛(委員長) 阪 正晴 飯島 武 徳本 弘子 早坂 直子
堀之内 宏久 安西 由紀江 長谷川 幸恵 【敬称略】
(事務局)
小泉事務長 玉野教務主任 松本教務主任
欠席者 (委員)
杉本 達洋【敬称略】
4. 議 題 報告事項
(1) 令和3年度学校評価について(概要説明)
(2) 令和4年度学院運営目標について
(3) 令和4年度学校の現状報告
1) 学生現状報告
2) コロナ禍における学校運営について
5. 公開・非公開
の別 公開
6. 傍聴人 なし
7. 会議資料 (1) 令和4年度第1回さいたま市立高等看護学院運営委員会式次第
(2) さいたま市立高等看護学院運営委員名簿
(3) さいたま市立高等看護学院運営委員会規定
(4) 令和4年度第1回運営委員会資料
8. 問合せ先 保健福祉局 保健部 高等看護学院
電話 048-873-0281

1 開会	(司会進行・事務局 小泉)
2 委員長挨拶	(細沼委員長)
3 委員紹介	(事務局 小泉)
4 議事	(事務局 小泉) <さいたま市情報公開例第 23 条に基づく公開、傍聴者の確認。 事務局より、傍聴者ない旨報告>
5 報告 事項 (1) 説明	(事務局 小泉) <報告事項 (1) について説明>
質疑	(阪委員) 「XI. 広報・地域活動」で、学生のボランティア活動は、学内できるペットボトルのキャップの回収に取り組んだとなっているが、どのような活動なのか。 (長谷川委員) 学生達がペットボトルのキャップを集め、支援団体に提供すると、ワクチン接種ができない海外の子ども達にワクチン支援をする活動である。ペットボトルのキャップ約 1000 個で 1 人分のワクチンになっていく。 (徳本委員) 教員育成の中で、ハラスメントの研修はどのようなことされているのか。ハラスメントと関連して、怒られ慣れていない学生達が多くなっている中、どのようなことに注意をして、学生指導を行っているのか、また、I T C が盛になると情報リテラシーが問題になってくるがどのような教育を行っているのか。 (長谷川委員) ハラスメントの研修は、教員研修や市等の研修に参加している。教員からの指導を、怒られていると受け取る学生もいるため、面接は、教員 2 名で入っている。教員 2 名での面接は、学生に対して圧的な態度になっていないか教員同士で気を付けながら面接できることと、偏った見方の防止につながっている。 学生の意見箱の中に、教員についての投書が入った場合には、学院長が、その教員に投書の内容と事実確認をした上で指導を行っている。 情報リテラシーの教育に関しては、課題もあるが、実習に関して

は、個人情報の保護について、教育をしている。

現在、コロナ禍で学内実習が多く、ペーパーシミュレーションでの看護展開になっている。**実習記録を自宅に持ち帰る場合には、紛失しないよう厳しく注意を行い、今のところ問題は起きていない。**

(徳本委員)

記録の取り扱いもあるが、大学でも、学生同士の情報のやり取りの意識が低く、注意しても、自分が作成した記録を友達にデータで渡し、コピーアンドペーストをしてしまうことがある。

(長谷川委員)

実習記録に関しては、**時代的に後退しているが、全て手書きにしている。**学生からは、パソコンで記録を作成したいという希望もあるが、文章のコピーアンドペーストの予防と**学生がきちんと考え、一人ひとりが記録を書けるようにと考え、手書きにした。**国家試験の出題も思考を問う問題が出題されているため自分で考える力が必要と考える。

(安西委員)

メンタルヘルスの不調を訴える学生がコロナ禍で多くなっているように思えるが「VI. 学生生活の支援」にあるアドバイザーは学生にどのような支援をしているのか。

(長谷川委員)

アドバイザーに関しては、学習支援と生活支援を行っている。しかし、アドバイザーの教員と学生が必ずしも合うとは限らない。そういった場合、学年担任を3人いるため、誰かに相談できる仕組みにしている。

カウンセリングに関しては、昨年度は、カウセリング希望者が多く月2回に増やし対応したが、今年度は希望者が少なく月1回にしている。希望者が増えるようなら回数を増やしていく。

(徳本委員)

コロナ禍で色々なことができず卒業していった学生が、入職後、病棟に行けなくなる、退職してしまうなどの話は聞くが、卒業生の状況はどうなっているのか。

(長谷川委員)

里帰りDAYについては、昨年は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、10月から12月に時期をずらし開催した。卒業生一人ひとり近況報告をしてもらい、気になる卒業生は個別に話を聞き対応をした。また、いつでも卒業生が来校して相談できるようにしている。

臨床実習に行く機会が少なく、看護技術が追いつかないこともあつ

<p>事項（２）説明</p>	<p>たと聞いているが、病棟で指導をしてもらい看護技術を修得している様子であった。</p> <p>（事務局 小泉）</p> <p>〈報告事項（２）について説明〉</p>
<p>事項（３）説明</p>	<p>質疑、意見なし</p> <p>（細沼委員長）</p> <p>組織目標に沿って運営して欲しい。</p>
<p>6. 閉会</p>	<p>（事務局 松本）</p> <p>質疑、意見なし</p> <p>（細沼委員長）</p> <p>（事務局 小泉）</p> <p style="text-align: right;">以上</p>